

日刊 動労千葉

81.12.26

No. 931

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四三（二二）七二〇七

一年間を振り返って

三月ジェット闘争が

全国に大きな共感を呼びおこす

新小岩支部執行委員長 松崎 靖

この一年間、激動の八〇年代を象徴するかの様に、情勢は目まぐるしく揺れ動き、多くのことがありましたが、自民党鈴木内閣は発足以来今日までの間、その反動性をさらけ出し、特に「行革に政治生命をかける」として、「軍拡」「福祉切り捨て」「法案を「仲裁」を人質に一部野党が協力して採決をするなど、極めて異常な事態がありました。

職場にも赤字を理由として、「国鉄経営改善計画」による、合理化の具体的な提案がなされ、その内容は国鉄労働者だけでなく、勤労大衆に対する公共性をかたがかり捨てた攻撃であります。これらの攻撃に対して有効な反撃の闘いを組織できない大きな弱点は、労働「統一」が

このような情勢のなかで、本年三月労働連帯の旗を高く掲げて、組織の総力をあげジェット闘争を闘い抜き全国に大きな共感を呼び起こし、支援連帯の輪が大きく広がっておりますが、こ

右の側から仕掛けられ、労働組合がその本質を見失っていることは、八一春闘の経過を見ていけばはつきりとしてきます。

の闘いのなかで動労「本部」反動分子のスト破り、そして権力に労働者売り渡すという、彼等の反動的な本質が明らかにされ、動労大改革に向けて更に前進する展望が開けてきた年であったと言えます。

各支部長
に聞くもの
4

三里塚・ジェット闘争貫徹／「国鉄35万人体制」粉碎／

大量不当処分は明確な組合つぶし

木更津支部
執行委員長

荻 込 昭 三

一・三〇「再建地本」デッチ上げ粉砕の闘いから始まり、二・三月助役機関士線見阻止闘争、そして三月ジェット燃料延長阻止闘争に対して、許すことのできない超反動的な大量不当処分が出されました。

八一春闘の敗北は、労働組合の原点が問われました。

五月、反動秋山局長を追放し、「本部」土屋幹一派解体のための組織強化に向けてながら、第五回メーデーに参加しました。また、三里塚芝山反対同盟との生き生きとした交流会が行われました。

「6・12」デッチ上げ告訴によって、

闘いと団結 = 写真で見る 動労千葉 4 -1981-

第6回動労千葉定期大会



81・3決戦勝利の地平を堅持し、第2・第3の81・3決戦を闘う方針と陣形を確立。10月9～10日、於千葉市

1,300の無限の底力を創出する「家族ぐるみ」の闘い。今年も各サークル活動は盛況に行われた。11月1日 団結祭典

木更津支部は、三里塚二期工事粉砕、国鉄三五万人合理化粉碎に向けて、動労千葉千三百名とともに、一致団結し、動労大改革に向けて共に最後まで闘います。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！